

News

No.132
2014/05/01

継承と進化



■サレジオ高専News

校長、副校長、事務長メッセージ
八王子コンソーシアムでの受賞
島川教授受賞報告
高専テザコン受賞報告
本校の教育・研究・社会貢献
斉藤准教授受賞報告/ソーラーカープロジェクト
部活動等の受賞報告
編集部からのお知らせ

■育英学院同窓会報

高専昇格50周年記念定期総会
育英グラフィックの会
高専1期生町田校舎へ
育英工高16期 電気B組クラス会
育英中学22期クラス会/ラジオ研究部・電気通信部OBOG会 (YGM50)
育英中学16期ナミナミの会
育英高専9期電気A組クラス会
育英写真部OBOG会
インタラクティブ・デジタルサイネージに支援実施
恩師訃報

■父母会だより

第47期卒業生保護者の声
父母会イベント

SALESIO

サレジオ高専

サレジオ工業高等専門学校

194-0215 東京都町田市小山ヶ丘4-6-8

Tel. 042-775-3020 Fax. 042-775-3021

Loving Kindness
Human Technology
Living Truth

発行人・・・校長:小島 知博
編集長・・・教員:山館 順
Design・・・広報:星野 正登



このエントランスには学生の制作したスケールモデル1も展示してあります

- 学生たちと皆様のお力に感謝いたします -

サレジオ高専 2Fエントランスの整備計画が
平成25年度の5ADの正課授業の中で
仮想就業体験を通して実現しました。（詳細は02ページ参照）

学生たちは学校をクライアント、
自分たちはそれを受けるデザイナーとしてプレゼンを繰り返し、
レイアウト設計、展示台の制作、PRムービーの制作を行い、
我々の期待を超えた内容で見事にリニューアルしてくれました。

学生たちの努力と本校の教育に対する卒業生や父母会の皆様のご理解に感謝し、
またRICOHソリューションズ東京様、ITEM-16様、富士ゼロックス様などの
企業の皆様からの多くのご支援にも心より感謝いたします。

そして学生たちの成長のために、日々つかず離れず
アシステンツァを通してしっかりと教育して下さった
杉島先生、菅原先生、織田先生に深く感謝いたします。

産学連携は、学生が卒業後の各々の姿をイメージし、
就職することへの意識を深め、専門技術習得の意欲を高める効果があります。
それだけではなく、学生の教育は学校だけで行われるのではなく、
保護者をはじめ多くに人々の協力によって実現することを明確にします。

学生たちがよき社会人となるために、さまざまな人たちが
本校の教育に関わってくださることの重要性を
あらためて認識させてくれます。

学生たちと皆様の方で生れ変わった2Fエントランスを
ぜひ来校してご覧ください。お待ちしております。

学校長 小島 知博

5年デザイン学科正課授業による2F共有スペースの再構築と 本校オリジナルのインタラクティブ・デジタルサイネージについて

右写真のように、この2F共有部は、かつては掲示板しかなく学習成果発表やコミュニケーションスペース等としての機能を持っていませんでした。

しかし平成25年度の5年デザイン学科の正課授業の中で、学校長をクライアント、学生はそれを受けるデザイナーとして仮想的な就業体験をしながら、社会経験豊富な教員の指導のもと実践的な基本設計、プレゼン、補正を繰り返し、最終提案後多機能スペースとして正式に整備、常駐設備として生れ変わりました。

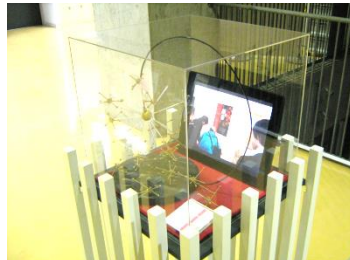
※ 仕上がりは01ページもご参照ください



学内展示プロジェクト



■2Fレイアウトプラン



↑ 高専デザコンで最優秀賞を受賞した作品（展示台自身）



↑ 展示台そのものも学生がデザインし制作しました



↓ この展示台も学生がデザインし制作しました



↓ レイアウトデザイン等についても学生が実施しました



スケールモデルも学生が制作しました



スケールモデルも学生が制作しました



スケールモデルも学生が制作しました



スケールモデルも学生が制作しました



なお、左の写真は、卒業生、父母会、同窓会の皆様及びリコーソリューションズ東京株式会社様、ITEM-16株式会社様を始め、様々な皆様が本校の学生と教育に対して寄付や設計などの支援活動をして下さった事で完成した、本校オリジナルの約80インチのインタラクティブデジタルサイネージです。

巨大なipadのように、タッチする事で両面からコントロール可能なデバイスですが、今後、産学連携等で企業の方々と学生が交流しながら、さらなる可能性を追求してゆければと考えております。

皆様のご支援、心より感謝申し上げます。

より高度で実践的な教育のため、そして本校で学ぶ学生たちの可能性への支援のため今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

文責 学校広報 星野正登



- 新たな道を走り出した皆様へ -

本号は今春の卒業生にも配られると聞いております。
そんな皆さんを念頭に置いて、この文章を書いています。

若い人から何か一言と頼まれると、「初心忘れるべからず」と書きます。
これは私の人生で、とりわけ仕事をしてきた中で一番役に立った格言です。

仕事をする、色々なストレスが溜まります。
面倒くさくなり、放り出したくなることもあります。
そんなときに、その仕事を引き受けたとき最初に頭に浮かんだことを
もう一度思い起こすと、打開策が得られることがあります。

また、その仕事や職業の原点を考えると、気持ちが楽になることがあります。
私は昔から一度は先生をしてみたいと思っていましたが、なかなか実現しませんでした。
50才を過ぎてから、偶然つかんだチャンスを逃さず念願の教員になったときの高揚感は、
今でも忘れることがありません。

その気持ちを思い出すと、今感じているストレスがつまらないものに見えて、
半分くらいはスッと消えていきます。

結婚したばかりの若い人達にも、

「初心忘れるべからず」

と祝いの言葉を贈っています。
この意味は、皆さん、お分かりですね。



副校長 平岡 一則



- 人は『夢』みるところまでいける -

私がサレジオ高専（育英高専）に赴任したのは39年前の昭和51年のことです。中学3年生の時に志した「夢」の一歩を踏み出すことができました。23歳で20歳の5年生の授業を担当することになったときは、授業準備に悪戦苦闘の日々でしたがとても充実した日々を送ることができました。昨年、38年間の教員生活にピリオドを打ち現在は職員として学校運営に携わっています。

昭和51年に体育館が落成し、翌年に学生食堂(70行 10行)・クラブハウスが相次いで完成し、教育環境整備のための建設の鈍音（ツチオト）が響く中で教育活動が展開されました。昭和63年に女子の1期生が入学し学校の雰囲気次第に和んでいきました。

電気工学科、機械電子工学科に在籍していた38年間に約2,200名の卒業生を送り出しました。通算で15年間学級担任を務め18期・24期生については入学から卒業までの5年間やらせてもらい、担任業務を通して人間教育（人格形成）のお手伝いできたことを誇りに思います。卒業アルバムにサインを依頼された際には、“人事を尽くして天命を待つ”という言葉を贈り続けました。

第2種電気工事士資格試験のための講習会も本当に長い間担当させていただきました。短期間で「知識と技能の習得」に励む学生達の意欲にはいつも感動させられました。

— 努力の種をまかなければ 夢の花は咲かない —

卒業時に「学校生活で最も印象に残っているのは野尻湖サマーキャンプです」と答える学生が沢山いました。社会人になった今でも良き思い出として懐かしく思い、できればもう一度野尻湖に行きたいと思っている卒業生のために“野尻に集う会”を企画・実現できればとも考えております。

“一期一会”の思いを胸に、育英祭などで再び卒業生の皆様とお会いできる日を教職員一同楽しみにしております。

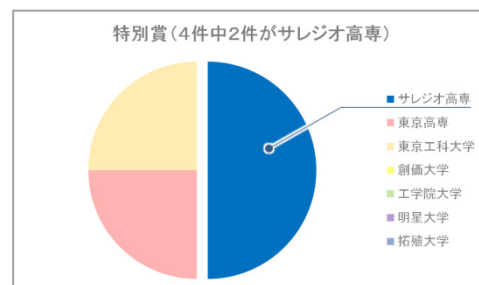
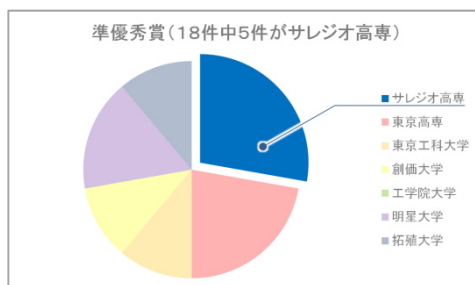
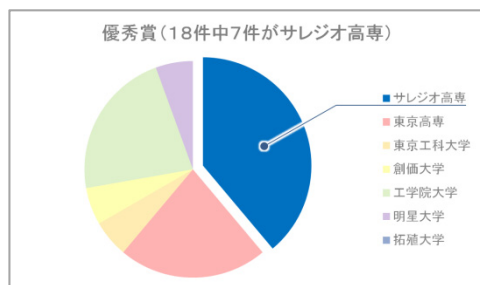
事務長 高橋 孝



- 第5回 大学コンソーシアム八王子学生発表会 受賞報告 -

2013年12月7日(土)・8日(日)に八王子市学園都市センターにおいて開催された

「第5回 大学コンソーシアム八王子 学生発表会 産学公連携・一般部門」において本校の学生達が多くの大学や国立高専と競い合い非常に優秀な成績を修めました



区分	優秀賞	準優秀賞	特別賞	受賞計
サレジオ高専	7	5	2	14
東京高専	4	4	1	9
東京工科大学	1	2	1	4
創価大学	1	2	0	3
工学院大学	4	0	0	4
明星大学	1	3	0	4
拓殖大学	0	2	0	2
賞の総枠	18	18	4	40
サレジオ高専の占める割合	38.9%	27.8%	50.0%	35.0%

「学生発表会」は、八王子地域23大学の学生が、幅広い分野の研究成果やアイデアを市民や企業の前で発表するもので、今年も、15校の大学、短大、高専から155団体が発表を行い、石森孝志市長並びに大学コンソーシアム八王子の軽部征夫会長、産学公連携部会の古本泰之部会長より表彰されました。

本校で学ぶ学生達の能力の高さ、そしてそれを育む本校の教育を誇りに思います。

文責 学校広報 星野正登

大学コンソーシアム八王子については<http://www.gakuen-hachioji.jp/about/> ↓ などをご覧ください

事業内容

大学コンソーシアム八王子は、大学・市民・経済団体・企業・行政の連携・協働を推進し、さまざまな視点から、八王子ならではの、より力強く、多彩な事業に取り組むことにより、高等教育の充実、地域社会の発展を目指します。



受賞者コメントなどについては06ページに記載してあります。

- 第5回 大学コンソーシアム八王子 学生発表会 受賞者 -

■ 佐藤 温（吉野研究室）優秀賞受賞【住空間の電界・磁界に着目した電力回収の検討】

「このたび、優秀賞をいただきまして大変光栄に思います。卒業研究での経験を活かし、卒業後も社会人として努力していきたいと思います。」



■ 山口 圭（産業応用研究室）優秀賞受賞【光触媒塗布PVモジュールにおける気化熱冷却効果の解明】

「卒業研究の成果を一つの形として残せたことを、大変嬉しく思っております。また、私達の受賞をきっかけにして、後輩達の研究・ものづくり活動が一層盛んになることを期待しています。」



■ 浅野 福太郎（電気エネルギー研究室）優秀賞受賞【競技用ソーラーカーにおけるエネルギー収支最適化の試み】

「先輩方の研究成果も含んだ発表でとても緊張しましたが、優秀賞をいただいて驚きました。とてもいい経験ができました。」



■ 古野 真菜実（グラフィックデザインコース）優秀賞受賞【五線譜が読めるようになるピアノ教材】

「先生方や友人たちの支えのおかげで受賞することが出来ました。これを糧にして今後も頑張りたいと思います。」



■ 小池 友亮（吉野研究室）優秀賞・特別賞同時受賞【屋外環境における熱電変換素子を用いた靴内温度差発電に関する検討】

「このたび、優秀賞ならびに特別賞をいただき大変嬉しく思います。今後も今回の受賞を励みに研究していきたいと思います。」



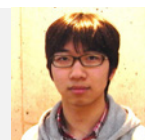
■ 岩下 真輝（産業応用研究室）優秀賞受賞【Solar Bike Race 2013 in HAMAMATSU】

「発表を通して相手に伝えることの大切さを学びました。今回の発表で得たことを活かし、来年発表する後輩を支援したいです。」



■ 片倉 嘉之（産業応用研究室）優秀賞受賞【電気エネルギーの理解に供する児童向け鉄道模型の提案】

「この活動に尽力してくれた友人が居なければ、優秀賞を頂くことはできませんでした。心より感謝申し上げます。」



■ 亀田 佳希（エネルギー変換研究室）準優秀賞受賞【中型・小型風力発電システムのヨー制御に関する検討】

「このたび、準優秀賞をいただきまして大変嬉しく思っております。今後もさらなる知識の習得と日々の研究活動に努めたいと思います。」



■ 吉留 大樹（機械計測制御研究室）準優秀賞受賞【大気中に放出される非定常衝撃波のBOS法による定量計測】

「この度、このような賞を頂けたことを大変喜ばしく思います。今後とも研究に全力を尽くしたいです。」



■ 中川 寛淑（産業応用研究室）準優秀賞・特別賞同時受賞

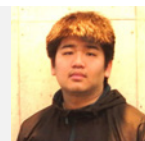
【光触媒を用いたPVモジュール表面のセルフクリーニングに関する検討】

「ダブル受賞できたのは、米盛弘信先生や先輩方のご指導による賜物です。今後も精進して参ります。」



■ 幸野 奨（吉野研究室）準優秀賞受賞【室内温度変化計測システム構築の構築による温度差発電の検討】

「この度は準優秀賞をいただき大変嬉しく思います。賞を頂いた事をバネに社会でも頑張りたいと思います。」



■ 植竹 裕也（プロダクトデザインコース）準優秀賞受賞【電子顕微鏡のデザイン提案】

「私達は、11人で取り組んだ課題について代表3人がまとめ、発表し、賞をいただきました。発表こそ私が行いましたが、今回の受賞は11人全員が力を合わせた結果です。（写真上：植竹裕也、写真下部左：山崎美優斗、写真下部右：安田康平）」



情報工学科長 島川 陽一 教授が、4th Industrial Engineering and Operations Management (IEOM2014) においてBest Track paper awardを受賞いたしました



IEOM 2014

Grand Hyatt Bali, Indonesia, January 7-9, 2014

 The Fourth International Conference on Industrial Engineering and Operations Management (IEOM), Grand Hyatt Hotel, Bali, Indonesia, January 7-9, 2014

Best Track Paper Award

This award is presented to
Hiroyuki Goto and Yoichi Shimakawa
In Recognition of the Outstanding Research Paper entitled
"Efficient Computation of the Area and Length of a Planar Contour Using Digital Elevation Model Data"
In Modeling and Simulation Track for 2014 IEOM Bali Conference
At Grand Hyatt Bali on January 8, 2014.


Aliad Ali, Ph.D.
Conference Chair


M. Rahman Khan Khadem, Ph.D.
Program Co-Chair

IEOM Forum: www.ieom.org

Sponsors: 

国際会議

4th Industrial Engineering and Operations Management (IEOM2014)

論文賞

Best Track paper award (Modeling and Simulation Track部門)

論文名

Efficient Computation of the Area and Length of a Planar Contour Using Digital Elevation Model Data

著者

Hiroyuki Goto, Department of Industrial & System Engineering, Hosei University, Koganei, Tokyo, Japan
Yoichi Shimakawa, Department of Computer Science and Technology, Salesian Polytechnic, Tokyo, Japan



論文概要

この論文ではデジタル化された標高データから地表面を近似する曲面の方程式を推定して、その物理的形狀を数的に解析する方法を提案しています。その最初の例として等高線を自動的に計算するアルゴリズムを提案しました。従来 の方法では三角形分割による平面近似であるのに対して、私たちの方法は曲面であるところが大きく違います。

この方法を使用すれば等高線だけでなく、最大勾配方向やアスペクトを容易に計算することが可能で、例えば流域に降った雨が河道に到達するまでの実際の河道網構造にあった河道流の追跡や種々の斜面形状に即した雨水の流出構造を解明することができます。



この研究は1999年に島川が伊理正夫先生と行っていたDEM(Digital Elevation Model)研究を基礎に法政大学の五島洋行先生が中心となって等高線を計算するアルゴリズムを発案し実装したものです。

IEOM2014はオペレーションズ・リサーチや経営工学の国際会議で米国を含めたアジア太平洋地区の研究者・実務担当者があつまります。

論文の完成度だけでなく実務的な点から評価を得たことは価値のあることであると考えています。

情報工学科 教授 島川 陽一

鳥取県米子市で開催された「全国高専デザインコンペティション2013」における
環境デザイン部門にて最優秀賞、文部科学大臣賞、審査員特別賞を。創造デザイン部門でも審査員特別賞を受賞しました

- 環境デザイン部門【最優秀賞・文部科学大臣賞受賞】… 3AD高橋怜亜さんと釧路高専・米子高専の合同チームで受賞（環境デザイン部門での最優秀賞受賞は本校初）
【審査員特別賞】… 2AD田原岳郎君と明石高専・阿南高専の合同チームで受賞。
- 創造デザイン部門【審査員特別賞】… 2AD佐藤愛さん、4AD馬場悠登君、4AD小宅修利君、4AD藤谷力澄君のチームで受賞

本校の学生が制作したポスター



創造デザイン部門「審査員特別賞」



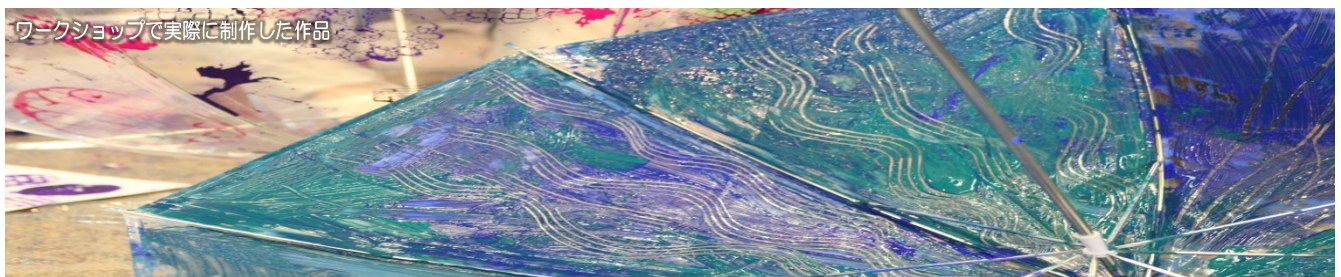
環境デザイン部門「最優秀賞・文部科学大臣賞」



本校からのデザコン参加者全員の集合写真



ワークショップで実際に制作した作品



学生たちは3日間、遅くまで準備をし、頑張っていました。
今回参加した4AD馬場悠登君、4AD小宅修利君、4AD藤谷力澄君
3AD高橋怜亜さん、2AD田原岳郎君、2AD佐藤愛さん達に
暖かい声をかけていただけたら幸いです。
最後になりましたが、デザコン出場に際し多くの皆様にお力添えを
いただき深く感謝致します。ありがとうございました。

デザイン学科 講師 谷上 欣也



米盛先生の研究「長期的に発電量低下を軽減させる太陽光発電（PV）システムの開発」が「平成24年度 復興促進プログラム（A-STEP）」に採択されました

－ 復興促進プログラムとは？ －

JST（独立行政法人 科学技術振興機構）が東北地方の産業団体や自治体と連携のもと、JST復興促進センターに所属するマッチングプランナーによる被災地産学共同研究支援や、全国の大学などの技術シーズの育成強化による被災地企業への移転促進などを総合的に実施することで、全国の大学などの技術シーズを被災地企業において実用化し、被災地経済の復興促進に貢献する事を目的とした事業です。

サレジオ高専は創立者ヨハネ・ボスコの精神に基づき、このような復興促進を通してこれからも彼らが「善き社会人」として習得した技術を通して社会を支えるよう努力してゆきます。

－ 他にはどんな大学等が採択された？ －

- ・東京大学 「被災地における除染モニタリングに向けた簡易モニタリングポストの新規開発および評価」
 - ・筑波大学 「高齢者うつ病・認知症の予防と早期診断のための血液検査システムの研究開発」
 - ・立命館大学 「海湖底地下環境計測のための浮遊式小型ブローロボット開発」
- …他多数

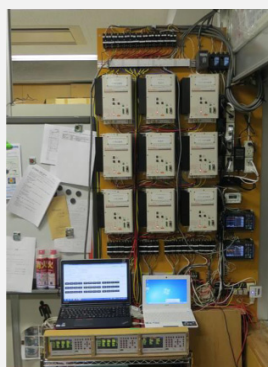
採択されたこれらの大学を見てもサレジオ高専の研究の水準は非常に高いと言えます、その内容を認められ約800万円の助成金を獲得いたしました。本校の研究水準が公的に評価された結果であると誇りに思います。

－ 研究の概要は？ －

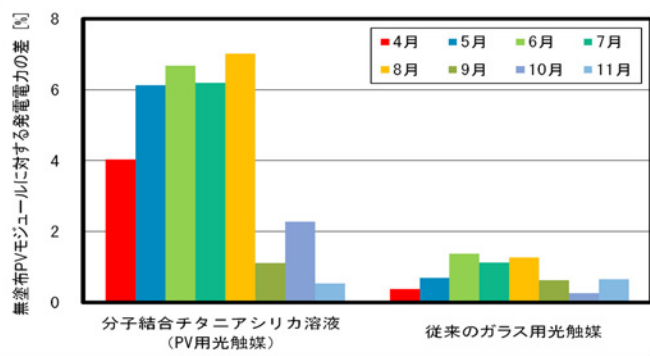
太陽電池（PVモジュール）は、表面の汚れによって日射が遮られて発電量が低下します。本研究では、汚染物に対して「独自製法の分子結合チタニアシリカ溶液（PV用光触媒）による塗膜」の良好な防汚（セルフクリーニング）効果を応用し、発電量の低下を軽減させる技術開発を目的としています。本研究は、環境事業を展開されている株式会社アサカ理研様（<http://www.asaka.co.jp/>）との共同で実施しています。産学共同の研究成果としては、分子結合チタニアシリカ溶液をPVモジュールへ塗布することで、セルフクリーニング効果が発揮され、測定期間中に最大7%程度の発電量低下を改善することが判明し、想定以上の結果が得られました。



屋上に設置した太陽光発電設備



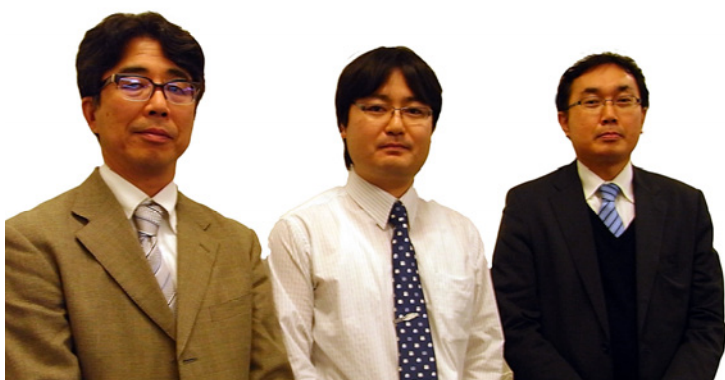
受電盤と制御装置



光触媒のセルフクリーニング効果 (プラス方向の値は発電量の改善を示す)

写真左より

「社会の為に今できる事を」



- ・株式会社アサカ理研 本田 武保 様メッセージ

「福島県に立地する当社にとって、再生可能エネルギーは特別な意味を持ちます。皆さんの若い力でクリーンなエネルギーを世に送り出していきましょう。」

- ・機械電子工学科 准教授 米盛 弘信メッセージ

「産学連携による研究テーマは、学生諸君が社会ニーズを具体的に体験できる絶好のチャンスです。学生諸君の研究成果を世の中へ発信し、社会貢献していきましょう。」

- ・株式会社アサカ理研 盛藤 義広 様

「復興促進プログラムでは、率先して各種試験に取り組んで頂き、感謝しております。皆様の培った技術が人々を幸せにする原動力となることを期待しております。」

米盛先生の研究で獲得した「平成24年度 復興促進プログラム (A-STEP)」をうけて
機械電子工学科 山口 圭君が電気設備学会全国大会で奨励賞を受賞しました



機械電子工学科 5年
山口 圭

「このたび、電気設備学会全国大会にて『 発表奨励賞 』をいただいたことは、身に余る光栄です。研究には様々な困難がありましたが、周りの方々からのご支援があったからこそ、乗り越えることができました。先輩や後輩、友人らと、たくさんのご指導をくださった米盛先生に、この場をお借りして感謝申し上げます。これからは、この受賞に満足することなく、これまで以上に精進を積み、研究に励んでいきたいです。」



論文要旨

屋外に設置されているPVモジュールの温度は、太陽光の日射、気温、風速などの様々な外的要因によって常に変動している。夏の暑い時期には、太陽光の日射条件にもよるが、PVモジュールの温度が最高70℃～80℃まで上昇する。通常、PVモジュールの温度が高くなる場合は日射量が多いため発電量の増加が期待されるが、発電効率は温度の上昇とともに低下していく。PVモジュールの発電効率は、表面温度に影響され、表面温度が1℃上昇するごとに変換率は約0.5%も低下する。発電効率の表示は25℃を基準としたものなので、実際の発電量はPVモジュール温度の変化とともに変化する。したがって、夏場は定格最大出力の22.5%～27.5%も低下するという換算になる。しかし、PVモジュールの温度上昇を抑制することが可能ならば、発電効率を大幅に向上させることが期待できる。先行研究では、春夏秋冬で散水するタイミングを変えて間歇水冷却することで発電量を向上させた報告がある。筆者らは、以上の背景をもとに効率の良い冷却手法の開発に着手した。気化熱を得やすくするためには、PVモジュール表面に水が行き渡る必要がある。そこで、セルフリーニング効果や超親水性を有する分子結合チタニアシリカ光触媒(樹アサカ理研製)をPVモジュールに塗布することを考案した。本稿では、分子結合チタニアシリカ光触媒を塗布したPVモジュール表面に散水することで気化熱を得やすくし、発電量の向上を試みる。

教育・研究・社会貢献

— 09～10ページの関係性について —

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」では大学に期待される役割として、社会貢献(地域社会・経済社会・国際社会等広い意味での社会全体への発展への寄与)が重要視されており、より直接的な貢献が求められています。

つまりこれが大学、高専などの高等教育機関が果たすべき、研究、教育に続く「第三の使命」となっております。

智慧を高める「研究」や、智慧を継承する「教育」とは、そもそもそれぞれ自体が長期的観点からの社会貢献ですが、09ページのような米盛先生の企業との連携による智慧の還元とは前述したより直接的な社会貢献であると言えます。

智慧を継承した人材の輩出で長期的社会貢献
産学連携等を通して直接的な社会貢献

— そして新たな智慧は再び研究・教育へ —



そして10ページの山口君の奨励賞受賞という結果は、この「研究」により高められた米盛先生の智慧が、「教育」により山口君のような、未来を担う次世代へと確かに継承された事であると言えます。つまり今回の受賞とは本校の目指す

「善き社会人の育成による社会貢献」

であり、今後もより良い社会の為に本校の教育・研究・社会貢献は進化し続けてゆくと考えます。

これからも本校の教育・研究・社会貢献へのご支援をよろしくお願いいたします。

文責 学校広報 星野 正登



電気工学科の齊藤純 准教授が「平成25年度 全国高専教育フォーラム」において「高専導入教材としての簡易電気自動車キットを用いた教育プログラムの提案」で優秀発表賞を受賞しました



平成25年度 全国高専教育フォーラム

全国高専教育フォーラムとは、国公立高等専門学校・長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学の教職員が一堂に会し、教育研究の質の向上、教育方法の開発推進のための研究・事例の成果発表や意見交換を行うことにより、教職員の資質や高等専門学校の教育ポテンシャルの向上を目指すことを目的として開催するフォーラムです。このフォーラムにおいて本校の齊藤純准教授の複合的な価値をもった取り組みが高い評価を頂き優秀発表賞を受賞いたしました。



概要

電気工学関連科目の講義で学生に本質的な内容を理解させることの難しさの要因として、電気工学は目に見えない現象を学ぶ分野であるため内容をイメージし難いことが挙げられます。その解決には低学年での学習過程で、電気エネルギーの定量的理解とともに感覚的理解をさせることが有効であると考えます。

この教育プログラムはソーラーカーなど様々なプロジェクト活動におけるPBL 教育(Project Based Learning)の指導経験から、学生自らが乗車する体験が伴うものづくりは、エネルギーの感覚的理解が可能であるとともに、創作意欲や技術的な好奇心と創意工夫を喚起するのに有効なテーマであると捉えたもので、本校電気工学科の実践的技術者の育成を目指すものづくり教育のひとつとして、1年次工学基礎において学生らによる設計の電動カートを製作して実際に運転することで、専門科目への好奇心の喚起、電気エネルギーの体験的理解、エンジニアリングデザイン能力の育成を図る実習を実施するものです。

なお本研究はJSPS科研費23501040の助成を受けたものです。

— 成長を加速させる実習の流れ —



皆様こんにちは。
電気工学科の齊藤 純です。

この度この賞を頂けたのは、同校の山下幸三先生、藤野裕之先生、渡邊聡先生、山下健一郎先生のご協力あってのものです。この場をお借りしてお礼申し上げます。

このプログラムを通して、学生達が電気工学を体感的に理解するとともに、学ぶ事、創る事の難しさと楽しさを学んでくれることを心から願っています。

※ 右のデモカーについては次号Newsに掲載予定です

— デモカー「W-EV02」と齊藤准教授 —



継承される魂



Salesian Polytechnic Solar Car Project



1992



1992



1993



1994~2003



1996~2003



2004~

プロジェクトのHPやブログも是非ご覧ください



<http://www.salesio-sp.ac.jp/hp/solarcar/index.html>



&

<http://solarcarsp.blogspot.jp/>



皆様こんにちは。ソーラーカープロジェクト代表の齊藤純です。育英高専時代から数えて23年と長い歴史を持つソーラーカープロジェクトを担当させていただいております。ソーラーカープロジェクトでは、競技用ソーラーカーやその周辺技術について、日夜ものづくりや研究開発活動にチーム一丸となって取り組んでおり、これらの成果の確認の場として国内外の大会に参戦しています。これらの活動を通じて、目的意識の醸成と達成感の体験、ものづくり、研究開発活動やチームワークなど、プロジェクト型実践的学習の場として成果をあげてまいりました。

競技用ソーラーカーとしては実用的な寸法と形状に近づけた小型車両「SALESIO」は、今年で9年目と長期に活躍しています。現在は車両性能の向上だけでなく、エネルギーマネジメントシステムや、ドライバーのエコドライブ支援システムなど、エネルギーの効率的利用に関する開発にも取り組んでおります。競技大会の中では発電量が他チームに劣るものの、ギリギリのせめぎ合いをしながらも上位を争っており、昨年度は総合3位という成績を収めました。これらの成果は、皆様のご支援や学生たちのたゆまぬ努力によるものと確信しております。

ここ数年、サレジオ高専に入学してくる学生たちは再生可能エネルギーに関心が高くなってきていることを実感しています。太陽光によるエネルギーを扱うソーラーカーは、環境について考える場、技術向上やアイデア具現の場、新技術の研究の場として最適であり、今後もこの活動が担う意味は多いと考えられます。

夢を実現させるためには、失敗を恐れないチャレンジ精神と、必ず実現しようとする信念を持ち続けることが大切です。これらを学生達に伝え続けるために、共に歩み続けていきたいと思っております。

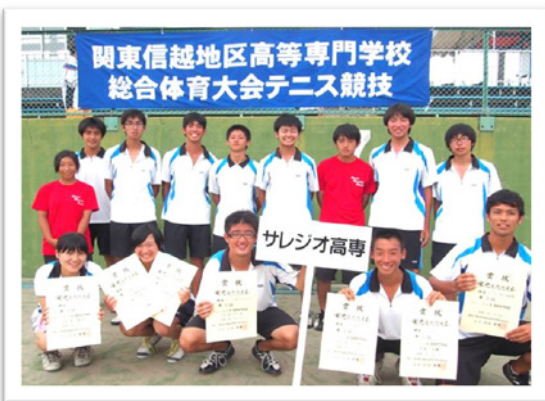
今後とも、学生達およびソーラーカープロジェクトへのご支援を何卒お願い申し上げます。



電気工学科 准教授 齊藤 純

- 2013年度関東信越地区高等専門学校体育大会（テニス競技）受賞報告 -

2013年7月12日～14日 栃木県小山市小山運動公園での2013年度関東信越地区高等専門学校体育大会（テニス競技）で男子シングルス、ダブルス共に優勝、女子シングルス準優勝、女子ダブルス3位、男子団体戦3位という結果を残しました。



「団体戦での全国大会は逃しましたが、個人戦では男子・女子が全国大会に駒を進め、特に吉留君は5年連続全国大会出場となりました。今年で引退となる5年生に負けぬ様、来年度も頑張りますので、応援をよろしくお願いします。」

テニス部顧問 椎名 正明

- 第49回 関東高専体育大会秋季 剣道競技 受賞報告 -

2013年11月10日 都立産技高専での「第49回関東高専体育大会秋季 剣道競技」で、3ME 坂本 玲雄君が個人戦優勝（大会2連覇）2ME 小山 和洋君が第3位、3EE 八田 宏志君、3ME 木村 紘章君はベスト8、団体戦では第2位を獲得しました。



「団体戦では結果こそ残せませんでした、春から比べると各自、打ちへの入りがとても良くなり、気・剣・体一致の剣道に少し近づけたかなという感じでした。これからの成長がますます楽しみです。」

剣道部顧問 米山 秋文

- JTLAEME' 13 (タイ, バンコク) Best Paper Award 受賞報告 -

2013年8月31日（土）～9月1日（日）タイ、バンコック、Twin Towers Hotel において開催された JTLAEME' 13 でサレジオ高専 電気工学科5年 川崎良樹君が Best Paper Award で表彰されました。



「この受賞は各国の大学教員、大学院生が行う全72講演の中から選ばれたものです。川崎君は事前に提出した論文『電気二重層キャパシタの充放電劣化の研究』について、15分間にわたって英語にて口頭発表を行いました。真面目で真剣に取り組む姿勢を誇りに思います。」

電気工学科 准教授 房野 俊夫

- 第28回 関東信越地区 英語弁論大会 受賞報告 -

2013年11月16日に東京都立産業技術高等専門学校で開催された第28回関東信越地区英語弁論大会でデザイン科2年下川和倫さんがレシテーションの部で2位に入賞しました



「残念ながら受賞を逃してしまった学生達も本当に直前まで練習を重ね、大きな緊張感の中、精一杯発表することができました。これを機に、もっともっと英語に興味を持って、勉強だけでなく海外等へ発信できればと思います。また、特に手厚いケアをしてくれたマッカン先生に深謝いたします。」

英語科 講師 椎名 正明

The 28th Annual Kanto Shin-Etsu
English Speech and Recitation Contest

編集部からのお願い



本誌をご覧の皆様

ご覧いただき誠にありがとうございます。編集長の山舘、編集・リニューアルデザイン担当の星野です。
今号よりNewsのレイアウトを全て学内でリニューアルし、学生や教職員の活動にさらに主眼を置いた編集方針いたしましたがいかがだったでしょうか？

しかしご覧のとおりこのページ数では全てを載せる事は出来ません。なぜならば、人の数だけ素晴らしい活躍が本校には存在するからです。
ところが実は我々は皆様のご活躍を全て知っているわけではありません。

そこで本誌をご覧の皆様にお願ひがあります。

皆様ご自身のご活躍や、皆様のご学友や先輩・後輩関係から得た最近のご様子など編集部にご提供頂けませんか？
またはご興味のある教育・研究・社会貢献活動等についての特集のご要望でも結構です。
そしてもし可能であれば、学生たちや教職員達の活動に励ましのお言葉や様々なご支援を頂ければ幸いです。

皆様からのご連絡を心よりお待ちしております。

※ 情報提供・ご支援に関するご質問などは【 学校広報 星野 hoshino@salesio-sp.ac.jp か、042-775-3061 】までご連絡ください ※

育英学院同窓会報

発行人:育英学院同窓会 会長 林 紹澄 / 事務局:町田市小山ヶ丘4-6-8 サレジオ高専内



— お知らせ —

SHCD2014を育英祭11.1に開催。2,3,4,5,41,42,47期を招待します。

高専昇格50周年記念 定期総会および卒業生の集い(CHD 01 & 46) 2013. 11. 2

サレジオ高専の育英祭に合わせて、育英学院同窓会の定期総会が開催された。当日招待された高専1期生、46期生を中心に同窓会執行役員他を含めて約40名ほどが出席し、以下の通り進められた。

<定期総会>

近松副会長による司会で開会、総会の成立、議長の選出、続いて議長の林会長により第2号議案(高専ニュース131号参照)から審議に入る。奥山副会長により11-12年度事業報告から、CHD44(44期生の謝恩会)、ヘンドリックス先生の葬儀、追悼式など特別事業を報告、由良副会長から同期の決算報告が行われ、前述の特別事業で124万程度の出費、これに対して会員からの年会費が108万を超え、結果予算に対する収支差約85万が収入超37万と予備費取崩47万で措置できた。年会費の収入が重要であった。

生田目監事から決算監査報告があり、議長から承認の可否が問われ、拍手多数で承認された。さらに奥山副会長から13-14年度の事業計画、由良副会長からそれに伴う予算案も説明があり、拍手多数で承認された。その後、議長である林会長から4,5,6,7号議案の説明があり、新しい同窓会事務局長である、高橋孝高専事務長の紹介と挨拶、また特に今期は2015年に迎えるDB200(ドン・ボスコ生誕200年祭)に対する事業計画について説明があった。総会はこのままで閉会となり、引き続き卒業生の集い(CHD01&46)へと進められた。



<卒業生の集い(CHD01&46)>

引き続き入学して50年を迎えた高専1期生と新卒46期生を招待して卒業生の集いが以下の通り開かれた。近松副会長の進行でスタート、当日は1期生19名、46期生44名、同窓会関係者12名、現元教職員19名、その他の期の卒業生を含めて100名を超える参加者があった。次に小島サレジオ高専校長、林同窓会長、小菅1期生、坂和46期生の挨拶のあと、水谷キャリアセンター長の音頭で乾杯、つづいて育英75周年時に製作された育英75の映像紹介で会食、懇談に入った。総会前に午後1時頃から1期生は50年ぶりの母校訪問なので一部の有志は校内見学ツアーに参加し母校の発展に思いをいたしつつ互いに歓談、46期生は卒業後半年を超えて、仕事の様子、近況に話が盛り上がった。

このあと恒例のBINGO大会、例年の商品USBメモリーはトップ賞が64GB、以下4GBまで全部で61本、五目並べから始まり、そのダブルへと進み、最後は全部埋める緊迫の瞬間64GBが高専1期の阿久津さんに当たり大喜びだった。最後は高橋同窓会事務局長の中締め、山下氏(1期生)の一本メで終了した。



高橋新事務局長挨拶



林同窓会長挨拶



小菅1期生挨拶



坂和46期生挨拶

育英グラフィックの会開催 (印刷系卒業生による勉強会) 2013. 11. 4

去る2013年11月4日、東京新宿の京王プラザホテルにおいて「育英グラフィックの会」が開催された。 ※次ページへ続く

1994年に結成され毎年開催されていたが、ここ数年は幹事会だけに留まっていた。今回、高専11期の水野秀也氏のハイデルベルグ・ジャパン代表取締役就任を祝して活動再開することとなった。幹事団のご苦勞にもかかわらず、最初に計画した9月16日は台風26号の直撃で直前に開催中止に追い込まれ、その後幹事団で機を失しないよう直ちに再開を計画、この11月4日に同所で開催することになった。会合には工高8期から高専35期まで印刷系学科の卒業生が参集し、印刷関係業界紙の関係者も加えて64名の出席となった。



集合写真(京王プラザホテル新宿)

工高9期の山田さんの司会進行により、まずこの会の新会長として高専2期の杉原さんを選出、皆さんの拍手で会長に就任し挨拶、つづいてサレジオ高専から小島知博校長の名代として高橋孝高専事務長(兼同窓会事務局長)が挨拶、校長からの祝電を披露、さらに高専初期の恩師カバリエレ先生がなつかしくもユーモアあふれる祝辞、元グラフィック工学科長の三浦先生の挨拶、恩師や幹事団の紹介と続き、水野さんの紹介挨拶もあり、「印刷業界今後の展望」と称するパネルディスカッションに移った。



座談会「印刷業界の現況と展望」



カバリエレ先生の挨拶

進行役の武田さん(東洋インキ)から激動する印刷界にあって最重要なことは「人材育成」としてパネラーに振られた。水野さん(ハイデル)は高専での体験から基礎教育の重要性、社員にたいしてITと英語がキーになると話され、杉原さん(ジャパンスリーブ)からは社内教育の重要性と実践について、興石さん(電通オンデマンド)からはITCによる市場の全国化への対応など変革への心構えなど短い時間ではあったが示唆にとんだパネルとなった。

記念撮影ののち、加藤先生のシャンパン乾杯で会食、懇親がスタート、会場は互いに挨拶や名刺交換、業界情報交換など活気にあふれる雰囲気となった。その後杉本先生の中締めで閉会し、今後、杉原新会長と共に、この会の発展を皆で誓った。

本会問い合わせ先

印刷系卒業生で科委員登録を希望される方は以下のアドレスにお尋ねください

h-kobayashi@seishin.co.jp

高専1期生 町田校舎へ 育英祭に来校

2013. 11. 2

去る11月2日、育英祭と、同窓会、卒業生の集い(1期生と46期生招待)に合わせて電気の高専1期生が町田キャンパスを訪問、同窓会事務局が校内を案内した。特に電気工学科の電気機械・高圧実験室には彼らが実習に使った3相誘導機の同期試験台、模擬送電線、水銀整流器などが現存し、工房には昔の旋盤や定盤や育英高専の道路標識などがあってなつかしく思いに浸った。出席者は阿久津、堀野、飯田、内田、河村、小菅、高橋良、平井、柳田、山下の諸君で、根岸先生、依田先生、木戸先生にも再会した。



育英工高16期 電気B組クラス会開催

2013. 10. 6

去る10月6日育英サイテック(杉並)において、クラス会を開催しました。去る2006年に帝国ホテルで工高16期の還暦会以来で、単独クラス会としては10年ぶりです。当日は思い出の杉並の地に集まった17名はあらかじめ地図を配布してあったにもかかわらず、元学校の周辺の変貌ぶりにサイテックが見つからず苦労された人もおりました。40-50年ぶりにあう仲間もあり、顔をあわせてもしばらく声もない・・・、あるいはあまり雰囲気が変わらない人もあり、ケータリングに舌鼓を打ちつつ育英75周年の映像をみながら歓談のひとときをすごしました。皆の近況報告のなかに桂嶋さんの「東北ボランティア」の紹介もあり、次は古希(70歳)で会おうということで散会、一部は2次会へと流れました。出席者は相川孝之、浅沼陽一、萩原祥夫、浜正也、早川慎吾、池田徹也、齋藤(石井)新、梶野政隆、桂嶋博明、木戸能史、木暮昌昭、小松栄二、大野達也、大澤弘明、高橋正一、高杉忠男、塚本徹也、斉藤幸雄(会費参加)の18名でした。



育英中学 22期クラス会開催

2013. 10. 6

中学22期(1968年3月育英中卒)の仲間が「還暦を迎えみんなで集まろう。」と題して集まりました。

※ 次ページへ続く

2013年2月頃同級の小田切治さんから「音頭を取ってくれ」と連絡が入り、日取りの調整に入りましたが何も決まらない日々が続き、毎日、3～5人づつ電話をしまくり、連絡のつかなかったメンバーも徐々に見付き、ようやく10月6日(日曜)11時30分に西武新宿駅に集合し、中村哲雄先生(美術担当)を含め18名が集まる事が出来ました。その後、堀内国彦さんの目黒区中町のお店「こだるま」に席を移し二次会を開催致しました。出席者は先生の他、小田切、中川を含め18名でした。



**ラジオ研究部(育英工高)
電気通信部(育英・サレジオ高専)OBOG会(YGM50)開催
2013. 12. 1**

去る2013年12月1日、杉並サイテックでYGM50(JA1YGM開局50周年記念OBOG会)を開催しました。2003年にYGM40を杉並で開催してから10年を経、奇しくも高専昇格50周年と時を同じく開局(昭和38(1963)年)50周年を迎えました。当日は工高11期(72歳)の方から高専41期(25歳)の方まで41名が参集し、全員の近況報告では真空管時代の807や2A3からトランジスタ、IC、LSI化した送受信機時代、RTTYなどパケット通信時代、そしてインターネット接続時代の思い出と日本の無線技術50年史をひもとくような話題になりました。高専では前身の工高時代から継続しているOBOG会が組織されているのは我が電気通信部のみで登録会員350名を超えています。



YGM50幹事団(今回指名)

OBOG会顧問YH16木戸能史 電子通信部顧問YS07大杉功(以下各卒期幹事)YH13三輪勝人、YH14依田勝、YH16早川慎吾、YS01道善邦雄、YS03田尻章、YS04齋藤武久、YS05井上忠昭、YH06井澤秋弘、YS07滝澤渉、田代修、YS08齋藤努、YS09大谷明弘、松永徹、YS11佐賀靖弘、YS12伊藤欣一、YS14太田実、YS16小林勝、祝田輝市、YS18伊神謙、YS20須郷亮、YS21伊藤真、松藤将剛、YS22宅間尚、YS24中嶋敏雄、YS26神田雄大、YS28岸新太郎、近内快爾、YS30二瓶竜行、YS31菅原孝義、YS34齋藤光司、布施朱里、YS37中沢優一、YS38野上翔、YS40本吉紀雄、YS44大和田光太郎

※今回のお知らせが届かなかったOBOGの方、OBOG会顧問(木戸)までご一報ください。(住所不明は350名余のうち100名に達しています。)

**育英中学
16期ナミナミの会
2013. 11. 9**

育英中学を昭和37年3月に卒業した仲間の有志で集まるナミナミの会が去る2013年11月9日新宿で開催、今回の幹事は萩原勇さんで、11名が参集、次回は2014年4月を予定、幹事は鞠子さんです。初期メンバーは青柳、原田、鞠子、永野、前川、小田切で今後新メンバーを加えて年2回程度で開催予定。



**育英高専9期
電気A組クラス会開催
2013. 12. 6**

高専9期電気A組の有志が集まり「土風呂池袋東口店」で忘年会を開催しました。昭和46年入学1EAの仲間です。特別参加の依田先生と、小山・村松・植田・小林・土屋・黒宮・佐戸井・竹谷・須賀・松永の11名でした。今後、同期会もあると思いますので高専電気9期の皆さん幹事 須賀直昭(S09EP32) までご連絡をどうぞ。



**育英写真部
OBOG会 新卒を迎えて
2014. 3. 16**



※ 次ページへ続く

前ページの続き

去る2014年3月16日サレジオ(育英)高専写真部のOBOG会が新卒歓迎をかねて2回目の会合を開催。品川ゲートシティ大崎で元顧問の川本、杉本両先生はじめ2期から47期まで23名が参集。今後については幹事会幹事長小泉(高専12期GA)さんまで。

**サレジオ高専
インタラクティブ・デジタルサイネージに支援実施
2013. 10**

昨年秋に、校舎棟2Fエントランスに設置したデジタルサイネージ装置の導入費用の一部を協力支援しました。今後告知や広報の手段として活用される予定です。(同窓会協力支援と表記してもらうことになっています)

このサイネージは強化ガラスに投影用フィルムとセンサーフィルムを貼り、その面にリコー様から寄贈していただいた超短焦点プロジェクターで様々な画像を投影し、タッチコントロールを可能にした、サレジオ高専オリジナルのインタラクティブ・デジタル・サイネージです。この開発にはリコー様からの協力もあり、産学連携モデルとして2014年5月21～23日に開催された「第5回 教育ITソリューション EXPO」において参考出展されました。(開場後は来場者が大挙して押し寄せるため下図は2日目早朝の開場前に撮影した設営中のものです。)



来場者へのプレゼンを行うメインスペースに常設展示



本校が映ったTVCM動画も会期中上映

小中学校・高校・大学・教育委員会・塾・予備校など多様な教育関係者が約2.5万人集まる大規模なイベントで、本校の多様な価値をPR出来ました事は、皆様からのご支援あってこそと心より感謝申し上げます。今後とも皆様からのご理解・ご協力なにとぞよろしくお願いいたします。

**恩師訃報
(2012.4以降)**

— 心よりご冥福をお祈りいたします —



故 エリック先生



故 中村皓一先生



故 ピサルスキ先生



故 益満友忠先生



故 岩波倭雄職員



故 長谷川徹先生

2014.1.1逝去(56) 故 エリック先生

エリック先生は1982-1996、育英高専在職、英語科教員、バスケットボール部顧問として学生に慕われました。(米国出身) 英語科同僚であった野島先生から追悼のメッセージを頂戴しました。「ドンボスコを生きると言われたのを覚えています。学生がキャンパスにいる間は、すべての時間を割いて遊び、相談に応じるなど常に学生と共にいました。エリック先生と共同作業ができたことを感謝しています。」

2014.3.25逝去(82) 故 中村皓一先生

中村皓一先生は1954-1993、育英工高、高専在職、英語科教員として、特に工業英語検定の普及に尽力された。後に教務主事、学務主幹を務め、故 平山先生とともに育英を支えられ、工高時代には教職員野球部で活躍、さらにバスケットボール部顧問として当時の生徒・学生を指導されました。

2014.5.6逝去(95) 故 ピサルスキ先生

1960-1975育英工高・高専在職、教務主事、校長を歴任、特に高専昇格に尽力されました。(ポーランド出身)

2013.3.10逝去(85) 故 益満友忠先生

1955-1983育英工高・高専在職、数学科教員後、就職指導室長として学生の進路指導にあたりました。

2013.9.18逝去(85) 故 岩波倭雄職員

1974-1986育英高専の職員(サレジオ会員)として総務を担当されました。

2013.8.13逝去(75) 故 長谷川徹先生

育英高専デザイン、グラフィック工学科を歴任、メリハリの利いた、学生の興味をひく授業で、多くの学生に慕われました。



高専News編集部では
皆様からの情報やご要望をお待ちしております。

ご自身の近況・ご学友の近況などの情報のご提供や、より詳しく知りたい本校の活動内容などがございましたら
お気軽に下記担当者までお問い合わせください。

学 校 広 報 室
星 野 正 登

【 hoshino@salesio-sp.ac.jp 】 or 【 042 - 775 - 3061 】

なお、本校に來校をご予定の方は、公共交通機関をご利用の上、
お気をつけてお越しください。

